

## 5章 火災の被害低減に向けた課題

### (1) 他都市との比較からみた課題

他都市との火災発生状況を比較した結果、札幌市は住宅火災、車両火災の比率が高く、火災原因ではこんろ火災の比率が高くなっています。また、火災発生季節をみると、6月や夏に火災発生比率が高く、火災発生時間帯は午前中の比率が高くなっています。

以上から、これらの傾向に対応した火災被害低減方策が必要です。

### (2) まちづくりセンター別火災分析からみた課題

まちづくりセンター別に火災の傾向を分析した結果、火災件数は札幌地区が最も多い、放火火災は藻岩地区が最も多い、こんろ火災は豊水地区が最も多いなど、火災発生原因、り災建物等、季節、時間帯、出火者の特徴など各項目における火災発生数が多い地域や火災発生比率が高い地域が明らかになりました。

これらの結果を踏まえ、まちづくりセンター地区別の火災傾向に対応した火災被害方策が必要です。加えて、まちづくりセンター地区別の火災傾向を地区内の住民に周知し、予防意識の向上を図ることが必要です。

### (3) 火災予防事業の検証からみた課題

#### a. ホームページアクセス状況の検証からみた課題

火災予防に関するサイトの5年間平均アクセス数は「火災予防トップページ」で約13,000件であり、「消防・火災予防トップページ」の約160,000件に対して1/12となっています。定期的な火災予防に関する情報発信を行い、アクセス数を増加することによって火災予防の低減を図ることが必要です。

また、5年間の月別平均アクセス数の推移と月別平均火災件数の推移が連動しているとはいえ、火災発生が多い6月に多く閲覧してもらうようホームページの工夫が必要です。

#### b. ポスター・チラシ等配布状況の検証からみた課題

ポスター・チラシ等はこれまで4月、10月に集中して配布していますが、今後は火災件数が多い6月の配布を検討することが必要です。また、放火火災が多い地域には、放火火災に関するちらしを配布したり、6月の火災が多い地域は6月にちらしを配布したりするなど、まちづくりセンター地区別の火災傾向を考慮したポスター、チラシ等を作成し配布することが必要です。

#### c. 予防行事の検証からみた課題

火災予防行事はこれまで年間3,000件超を実施しており、まちづくりセンター別にみると、火災件数が多い地域で予防行事等が多く実施されている傾向がみられます。引き続き、火災件数が多い地域での重点的な火災予防行事等の実施とともに、これまで火災予防行事件数等が少なく火災件数が多い地域での重点化、火災発生が多い月における火災予防行事の重点化など効率的な火災予防行事の実施が求められます。

また、火災予防行事は地域住民に直接伝えることが出来る機会であるため、画一的な行事内容ではなく地域の火災傾向や出火者傾向を踏まえた火災予防行事の実施が必要です。